

小学校における共用品授業の展開

共用品開発プロジェクト

—— 道徳の授業を生かした総合的な学習の時間の展開 ——

5年生の総合的な学習の時間

東京都小平市立小平第四小学校教諭 奥山 文子

1. この実践のよさ

- ★ 共用品の開発を通して、様々な人がいることに気づくことができる。
- ★ 不便さを考え、共に便利なものを開発することで、自分にできることを自覚できる。
- ★ 道徳の授業を「導入」「課題追求」の段階で位置づけることで、人を思いやる気持ちが深まり、活動に最後まで取り組む根気強さが育つ。

共用品とは、より多くの人々が共に利用できるように考えられた製品で、よく知られているのは、リンスと区別するためにボトルの横にギザギザのついたシャンプーの容器。目を閉じていてもシャンプーと分かる。

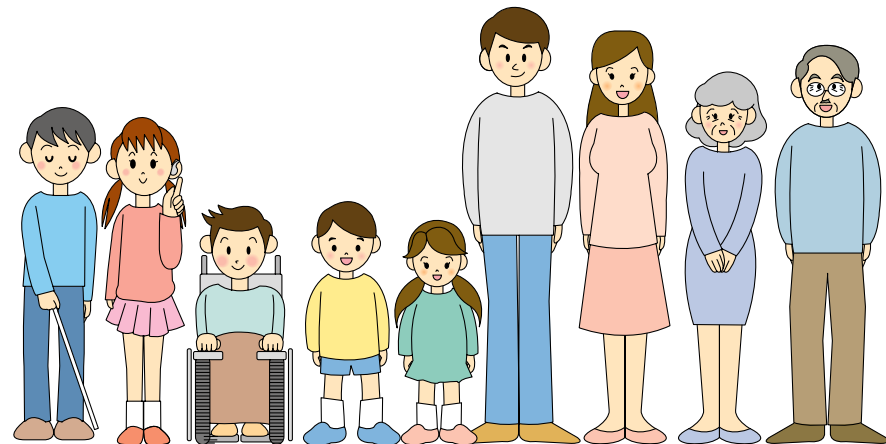
5年生の総合的な学習の時間で「共に生きる」をテーマに、この共用品を取り上げ、実際に開発し制作するという活動に挑戦した。

まず、自分たちの周りに、日常生活でいろいろな不便を感じている人がいることを知ることから活動を始めた。家族の中でも一人一人いろいろな違いがあることに気づくことを確かめ、町にはいろいろな障害のある人たちがいることに気づかせる。目や耳が不自由な人。高齢者。車いすを使っている人。そして、障害による「困っていること」を確かめる。

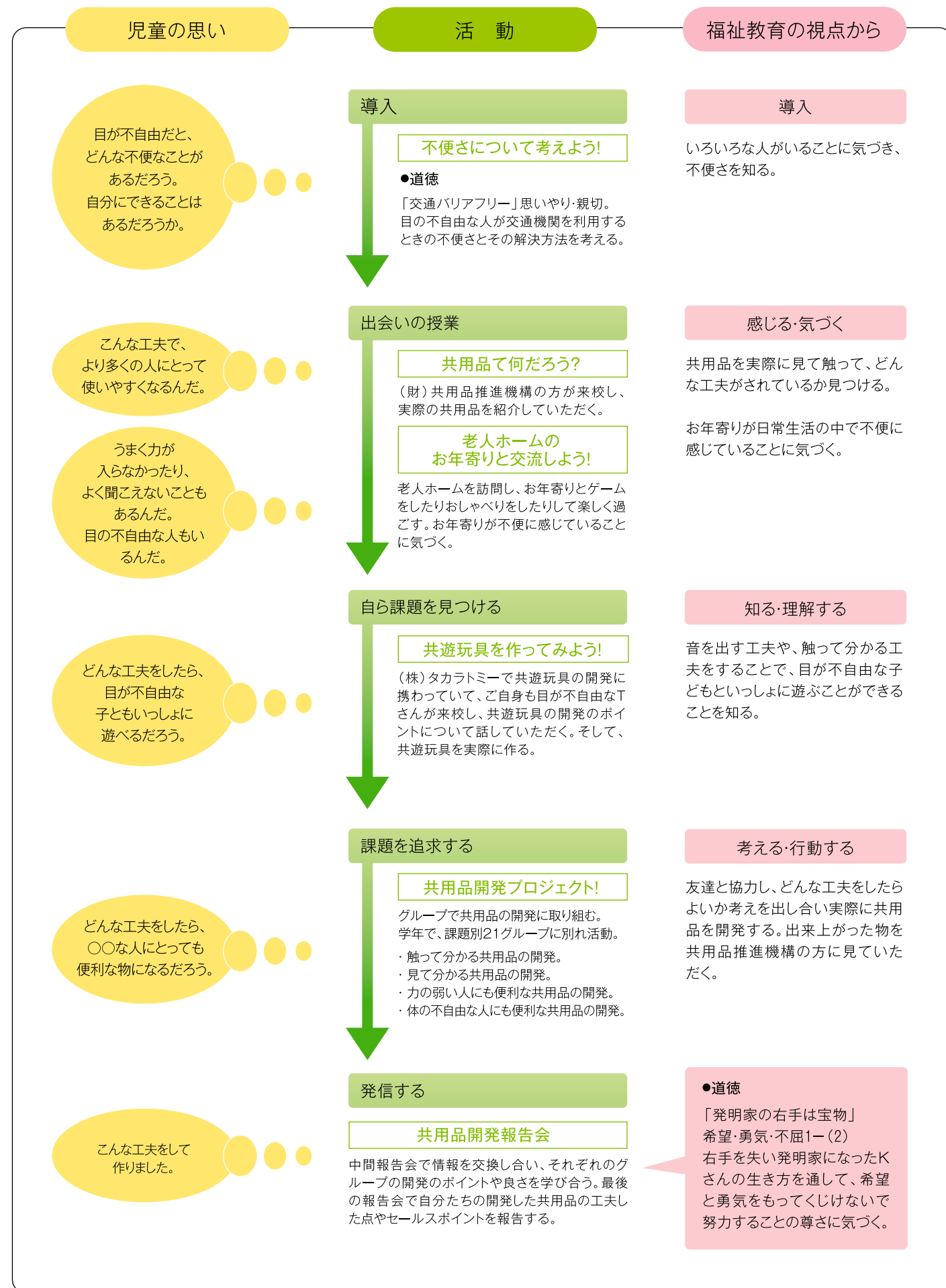
ここで、2-(2)「思いやり・親切」をねらいにした道徳の授業「交通バリアフリー」を位置づけた。目が不自由な人が、自宅から会社まで交通機関を使って行くビデオを見てその不便さを見つけ出し、自分たちにできることを考えさせる活動を展開した。

次に、実際に目の不自由な方や、高齢者との交流をもった。さらに、共用品の開発の推進と普及啓発を図っている(財)共用品推進機構の方を学校に招いて、共用品にどんな配慮がなされているのか、実物を見ながら教えていただく機会をもった。

そして、共用品の開発に取り組んだ。開発中、1-(2)「希望・勇気・不屈」をねらいにした道徳の授業「発明家の右手は宝物」(NHK道徳ドキュメント)を位置づけ、目標をもち最後まで取り組むことの尊さに触れさせた。ここで、道徳の授業を位置づけたことで、共用品の開発にも熱が入り、自分たちの思いや考え、できあがった共用品を伝えたいという気持ちも高まった。



2. 共用品開発プロジェクト活動計画



指導案その1 『視覚障害者の立場から「共用品」について知る』

総合的な学習の時間「共用品開発プロジェクト」を始めるにあたって、子ども達に自分の周りにはいろいろな人がいて、いろいろな不便を感じていることに気づかせたいと考え、「交通バリアフリー」の授業を位置づけた。

- 1 主題名 相手のことを思いやり親切にする。内容項目2-(2)
- 2 資料名 「交通バリアフリー」《花王(株)制作ビデオ》
- 3 ねらい 目の不自由な人が交通機関を利用するときの不便さとその解決方法について考えさせることで、思いやりの気持ちを育て、自分にできることを考えさせることによって親切にしようとする態度を育てる。

4 展開

	学習活動と主な発問	指導上の留意点など
導入	1 目が開けられないことで、どんな不便さがあるでしょう。 ◎髪を洗っているケンタ君が困っていることは何でしょう。	目が不自由だと生活していく上で困ることがある。困ることがバリアー(壁)でそれを解決していくことがバリアフリーであることを押さえる。
展開	2 「交通バリアフリー」のビデオを見る。(10分) 目の不自由な人にとって交通機関を利用する上での不便さと、その解決方法を考える。 (ワークシート)発表する。 ワークシートに書いたことを発表する。自分たちができる親切と、施設や設備の改善の問題を整理して考える。 3 自分にできることを考える。 ◎自分にできること、やってみようとおもったことをワークシートに書きましょう。	ビデオを視聴する前に、目の不自由なTさんについて簡単に説明をする。(おもちゃの開発を仕事としていて、外国へもよく仕事で出かけている。)ワークシートに書く視点を押さえる。 ◎目が不自由で困ること。 ◎その解決方法 発表したことを黒板にまとめて書いていく。 できること、やってみようと思ったことは後で担任がプリントにまとめて配布する。
展開終末	4 今日の学習を振り返る ◎目の不自由な人が生活していく上で不便に感じていることは他にないでしょうか。生活面での不便さを解決するために共用品の開発が進められていることを知らせる。	交通バリアフリー法、共用品について簡単に説明し、生活の中からバリアフリーについて考えられるよう視点を与える。

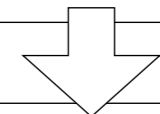
5 評価

- ・ 目の不自由な人が生活する上で不便に感じていること、またその解決方法について考えられたか。
- ・ 自分にできることを考え、親切にしたいという気持ちをもったか。

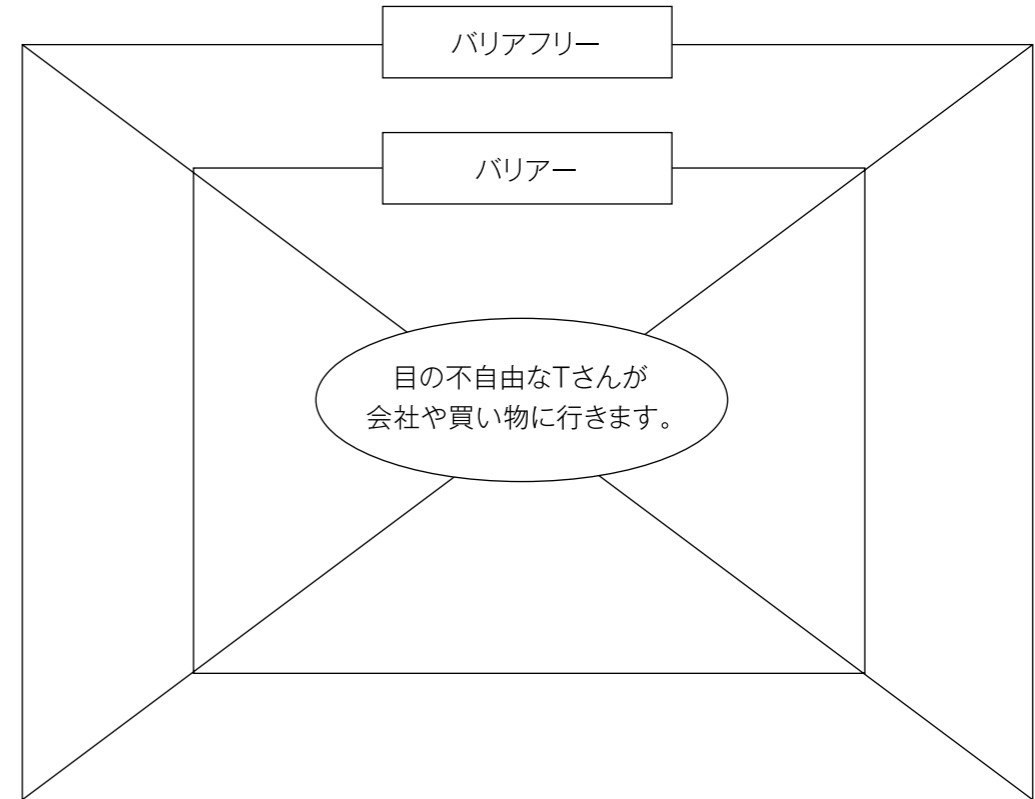
交通バリアフリー

年 組

障害のある人が生活していくには、モノやサービスに様々な「壁:バリアー」があります。では、具体的にどんなバリアーがあるのでしょうか。



目の不自由なTさんの場合のバリアーを考えてみます。



自分にできること、やってみようと思ったことを書きましょう。

幼稚園・保育園
小学校
中学校
高等学校・大学
特別支援学校

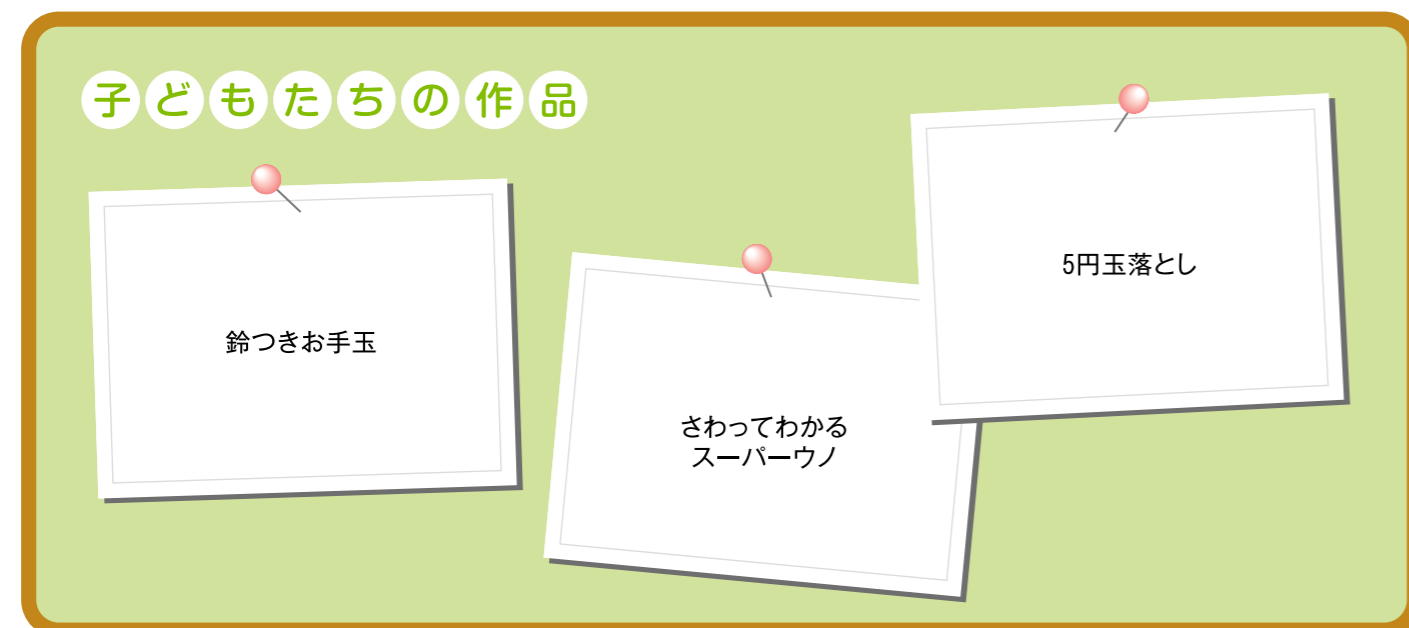
幼稚園・保育園
小学校
中学校
高等学校・大学
特別支援学校

4. 共用品開発プロジェクト①

『目の不自由な人もいっしょに楽しめるおもちゃを開発せよ』

夏休みの宿題で、5年生全員にこの課題を与えた。子ども達は様々な視点からおもちゃを作ってきた。作品とともに下記のような計画書を提出させた。

<h3>共用品開発プロジェクト</h3> <p>開発者 5年 組</p> <p>ミッション(課題) 目の不自由な人もいっしょに楽しめるおもちゃを開発せよ</p> <p>工夫すること ○さわって分かる。 ○音で分かる。 ○他</p>		<p>品名</p>
<p>品名</p> <p>設計図</p>	<p>使い方の説明</p>	<p>写真</p>
		<p>写真</p>



5. 共用品開発プロジェクト②

『共用品を開発せよ』

2学期になり、夏休みの「共遊玩具作り」の経験を生かし共用品開発プロジェクトを発足させた。

特別養護老人ホームを訪問し、お年寄りとの交流をもつなかで、お年寄りにとっても便利な共用品の開発にも取り組んだ。5年生85人が課題毎に21のグループに分かれ活動を進めていった。

再度Tさんに、おもちゃ開発のポイントについて話していただいた。

相手のことを考えるってなかなか難しい。いっしょに楽しめるためには……

○ 21グループ

- ・スーパーオセロ
- ・だれでも遊べる踏み踏みダンサー
- ・でこぼこパズル
- ・お助け用品
- ・カードゲーム
- ・さわって分かるトランプ
- ・アニマルユラリン
- ・らくらく栓抜き

他

○ 中間発表→制作→報告会

中間発表会で他のグループのよさを見つけ自分たちの開発に生かす。そして開発を進める。報告会では、自分たちのグループのよさをアピールした。

指導案その2 『発明家の右手は宝物』

共用品の開発を進めるにあたって、開発することの意味や最後まで仕上げようとする気持ちをもたせるために道徳の授業「発明家の右手は宝物」を位置づけた。

- 1 主題名 人生はチャレンジだ 内容項目1-(2)
- 2 資料名 「人生はチャレンジだ 発明家の右手は宝物」(NHK道徳ドキュメント)
- 3 ねらい 希望と勇気をもってくじけないで努力することの大切さに気づく。
- 4 展開

	学習活動と主な発問	指導上の留意点など
導入	1 夏休みに根気強く共遊玩具を作り上げたことを思い出す。 ◎目の不自由な人といっしょに遊べるおもちゃを作りましたね。	途中で投げ出したいと思ったことや、最後まで努力し仕上げた達成感を思い出させる。
展開	2 「発明家の右手は宝物」のビデオを見る。(15分) 右手の指を失ったKさんが発明家になったわけを考える。 ◎右手を失ったKさんの願いはなんだったでしょう。 Kさんの発明を支えているものは何か考える。 ◎発明家Kさんの今の幸せとは何でしょう。 3 Kさんから学んだことを書く。	ビデオを見る前にKさんの発明品の写真を3枚見せ、どんな人にとって便利なものか考えさせる。 ◎左手で茶碗を持ち、右手で箸を持って食事をしたいというKさんの願いを押さえる。 ◎右手が不自由さを教えてくれた、やる気まで与えてくれたと言ったKさんの言葉を思い出させる。自分が作ったもので喜んでもらえることが生き甲斐になっていることを理解させたい。
終末	4 今日の学習を振り返る ◎共用品の開発にとって大切なことは何かもう一度考えてみましょう。	◎ものを創り出すためには、材料と技術さえあればいいのではなく、どのような思いや考えが必要なのかを考えさせたい。

- 5 評価
- ・希望と勇気をもってくじけないで努力することの大切さに気づくことができたか。
- ・共用品の開発に進んで取り組み、最後まで仕上げようという気持ちをもてたか。

Kさんから学んだこと

私は、どこも不自由なく生まれてきて、大事故もなく日々を過ごしてきました。不自由があると、ほかの人と同じことができなくなります。ふつうの生活ができなくなります。でも同じに暮らせないことはありません。何か工夫ができれば毎日楽しくなります。

「自分の右手で箸を持って食事がしたい。」Kさんの夢です。そのためにアイデアも考え出しました。でも、会社の人たちは受け入れてくれません。それでも、Kさんはあきらめませんでした。ついに自分の夢をかなえたのです。失敗もしました。でも夢をかなえたかったです。ほかの人と同じ生活をしたい。夢はみんないっしょです。

Kさんはほかの人のことも考え、ほかのグッズも発明しました。夢はあきらめたら終わり。あきらめないで最後までやりとげよう。きっと夢はかなう。それを信じて毎日を過ごす。これがKさんから学んだことです。

まとめ この実践を振り返って

「共用品を知ることが、豊かな心をはぐくむことに。」(財)共用品推進機構発行の指導用ガイドブックの初めに書かれている言葉である。共用品について知ることは、自分のまわりに、そして社会に目を向けるきっかけになった。そして、いろいろな人がいることに気づき、不便さについて考えることができた。子どもたちは、頭だけで分かるのではなく実際に共用品を開発することを通して、共に生きることを意味を感じ取っていった。

さらに活動の導入と課題追求の段階で道徳の授業を位置づけたことで、子どもたちの中に豊かな心が育っていったと感じている。

今回の実践の中で、目の不自由な人やお年寄りとの交流を行ったことも意義深いものがあった。誰のための共用品かという具体的な目標をもてたことと、不便に感じていることをどのように解決していったらよいかについてアドバイスをもらったことは開発を進めるうえでよかった。

物を作り出すためには材料だけでは足りないこと。そこに人々の思いや願いがこめられているんだ、ということが子ども一人一人の心に刻まれた。

学年別 小学校における共用品授業の展開

1年生の
生活科の
授業

ともだちになろうよ [共遊玩具で遊ぼう!]

東京都千代田区立麹町小学校主任教諭 坂本千代

1. この実践を計画するにあたって

1年生は、その子なりの精一杯の力を発揮して、学習し、1年間で驚くほどの成長を見せる。小学校という新しい環境に戸惑いを見せる場合もあるが、それをしのぐパワーで、戸惑いを乗り越えてしまう子がほとんどである。「1年生になった」ということで、こんなにも力がわいてくるのかと、何度1年生を担当しても、そのパワーには感心させられる。

新しい環境の中で、多くの発見をしながら、新しい人間関係を作っていく1年生は、豊かな感性と柔らかい思考力をもっている。その子どもたちが、共用品の中の「共遊玩具」を使って遊ぶ体験をすることで、「楽しく遊べてよかった」と感じたり、「こんなおもちゃがあるのか」と気付いたりすることができるよと考えた。

2. 指導計画

単元名	ねらい	主な活動内容
ともだちになろうよ (12時間)	<ul style="list-style-type: none"> ◎学校には友達や先生がいることがわかり、友達とかかわろうとする意欲を高める。 ◎遊具や玩具を使って、仲よく遊ぶことができる。 ◎校内を探検し、校舎内や校庭にいる人々に進んであいさつしたり、話を聞いたりすることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎何をして遊ぶか考え、話し合う。 ◎学級の友達と自己紹介をし合い、名前を覚える。 ◎遊具や玩具を使って、遊ぶ。 ◎学校探検の約束を話し合い、仲よく探検をする。 ◎探検で見つけたことや聞いたことを発表する。

3. 授業について

- (1) 単元名 「ともだちになろうよ」
- (2) 目標
 - ・共遊玩具を使って、誰とでも楽しく遊ぶことができる。
 - ・遊びを通して、共遊玩具にある工夫について発見することができる。
- (3) 準備 共遊玩具(サウンドボール、オセロゲーム、黒ひげ危機一発、おえかきせんせい、コロコロあいうえおプラス、点字ランプ、点字ウノ)

(4) 展開

ねらい	みんなと たのしくあそぼう。	主な活動内容
1 本時の活動内容をつかむ。		◎目標が誰にもきちんと理解できるように、わかりやすい板書をする。
2 共遊玩具を使って遊ぶ。	おもちゃのなかの「くふう」を見つけよう。	<ul style="list-style-type: none"> ◎楽しく遊べるように、事前にルールの確認をしてから始める。 ◎どの子も参加できるように、班は3~4人編成にし、時間を区切って、全部のおもちゃで遊べるようにする。 ◎各班をまわり、共遊玩具の工夫について「どことなくふうがあった?」と問うたり、仲よく遊んでいることを誉めたりする言葉かけをしていく。
3 今日の発見を話し合う。		<ul style="list-style-type: none"> ◎「みつけたよカード」には、特に心に残ったことを絵や文字でかくようにする。 ◎カードをもとに発表し、互いの発見を共有できるようにする。 ◎この気づきは、おもちゃ作りの学習をする時に生かせるように、記録を残しておく。

(5) 評価

- ☆共遊玩具を使って、楽しく遊ぶことができたか。
- ☆今まで自分が使ってきたおもちゃと、共遊玩具との違いに気づくことができたか。



学年別 小学校における共用品授業の展開

2年生の
生活科の
授業

だれにべんりかな? [共用品を知ろう!]

東京都千代田区立麹町小学校主任教諭 坂本千代

1. この実践を計画するにあたって

2年生の生活科では、子どもたちが住んでいる町を探検するという学習をするところが多い。その「町探検」を通して、地域の中に、公共施設があったり、道路標識があったりすることなどに気づいていく。その活動の過程で道路に点字ブロックや交通弱者用押しボタンの信号があったりすることに気づく子どもたちもいる。

そこで、共用品の一部の商品を子どもたちに示し、それらの物が誰にとって便利であるかを考えさせる時間を、1時間設定した。そこでの視点が、次なる「町探検」で生かされると考えたからである。

2. 指導計画

単元名	ねらい	主な活動内容
なかよし しゅっぱつ たんけんたい (15時間)	<ul style="list-style-type: none"> ◎身近な町に関心を持ち、地域の人々やさまざまな場所に親しみをもってかかわったり、友達と協力して町を探検したりすることができる。 ◎町探検で見つけたことや気づいたことについて、自分らしい方法で表現したり、調べてきたことをまとめたりすることができる。 ◎町の人々や公共施設などの様子や、自分たちの生活とのかかわりに気づくとともに、町のよさに気づく。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎町に出かけ、町にあったもの、見つけた建物等についてまとめる。 ◎町の中で、もっと調べてみたいところを決め、グループを作り、質問や見てくることを話し合う。 ◎グループごとに町に出かけ、調べたい場所を取材する。 ◎取材したことをまとめ、発表する。
だれにべんりかな? (1時間)	<ul style="list-style-type: none"> ◎共用品が誰にとって役に立っているかに気づくことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎いくつかの共用品を触ったり、使ったりして、その工夫されている部分や使いやすさを体験する。
もっと まちをしりたいね (22時間)	<ul style="list-style-type: none"> ◎地域の公共施設を見学したり、調べたりすることを通して、それを支えている人がいることに気づくことができる。 ◎地域の公共施設を大切に、きまりを守って正しく利用することができる。 ◎町で見つけたことを、適切に表現して伝えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎町で、もっと知りたいことや、行ってみたい場所について話し合い、探検の計画を立てる。 ◎見つけた町のよさや知らせたい情報をどう表現するか話し合う。 ◎自分たちの町を住みやすくするために、自分たちにできることについて話し合う。

3. 授業について

- (1) 単元名 「だれにべんりかな?」
- (2) 目標 共用品の工夫されている部分が、どんな人に役に立っているか発見することができる。
- (3) 準備 絵本「ぞうくんのさわってわかるぞう」、共用品パック(牛乳パック、ペットボトル2L用、点字トランプ、色がつくのり、ラッチキス、缶ビール容器、シャンプー容器など)

(4) 展開

ねらい	主な活動内容
1 絵本「さわってわかるぞう」を聞いて、本時の活動内容をつかむ。	<p>きょうようひん 「共用品」は、 だれにとってべんりか、 みつけよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎教師が絵本を読み聞かせ、牛乳パックには「切りかき」という工夫をなされていることを知らせ、本時への意欲づけをする。 ◎誰にとっても共に利用しやすいサービスがしてあるものを「共用品」と呼ぶことを知らせる。
2 共用品を見て、触って、調べる。 (1) 全員で、「缶ビール」の点字や文字の工夫が、誰にとって便利なのか話し合う。 (2) 教室内においてある共用品を、個々に触って、調べる。 (3) 調べたことを発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ◎子どもたちに身近な物を共用品パックの中から選び、展示し、実際に手に取って触ったり動かしたりする活動がしやすい学習環境を作る。 ◎最初は一齐にわかりやすい「缶ビール」容器で考えさせ、点字は、目が見えない人にとって便利、缶の写真からジュースと勘違いしそうな大人や子どもにも「おさげです」の文字が役立つことを確認する。 ◎自分ではすぐに気づけなくても消極的にならず、進んで触って体験するように励ます。 ◎見つけたことを忘れないように、気づいたことをその都度「みつけたよカード」にまとめていくようにする。 ◎互いの考えを発表し合うことで、考えが深まるようにする。
3 今日の学習のまとめをする。	<ul style="list-style-type: none"> ◎子どもたちの発表から、共用品は、特定の障害がある人だけでなく、誰にとっても便利であることが実感できるようにまとめる。 ◎次の「町探検」では、町の中でも、共用品を見つけようという視点で出かけられるように励まし、授業を終わりにする。

(5) 評価

- ☆共用品の工夫が、誰にとって便利であるかに気づくことができたか。
- ☆共用品は、どんな人にも便利で使いやすい工夫がされていることがわかったか。



3年生の社会科の授業 町の中の工夫をさがそう

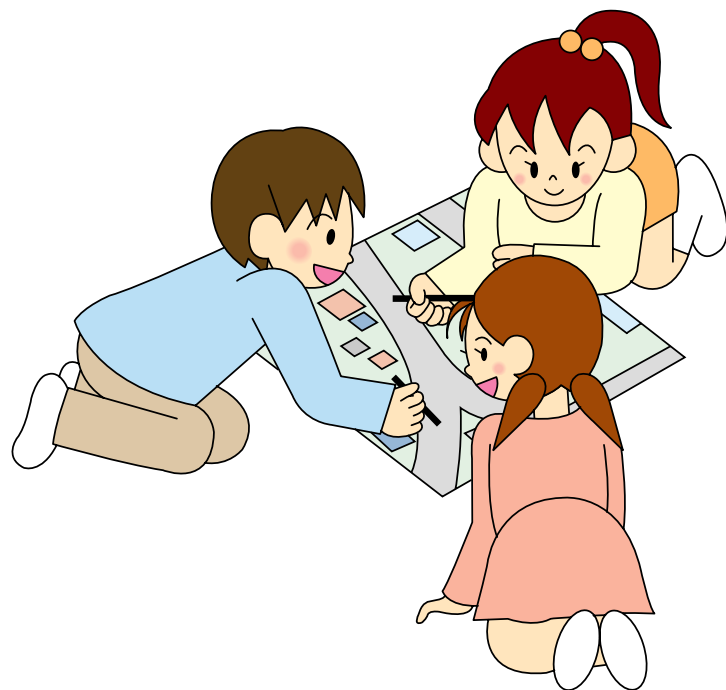
東京都千代田区立麹町小学校主任教諭 坂本千代

1. この実践を計画するにあたって

3年生の社会科では、子どもたちが住んでいる区市町村について学習をする。3年生になって初めて学習する「社会科」に子どもたちは張り切って取り組む、そのスタートとなる単元である。2年生までの「生活科」でも、「町探検」を通して、地域に目を向ける学習をしているが、範囲も広がり、より深く社会全体を見ていく学習が始まるのが、3年生である。そこで、子どもたちが住んでいる区市町村内の公共施設や交通施設などに、「みんなが使いやすいための配慮」としてどのような工夫がなされているか、共用品を通して学習する時間を1時間設定することにした。


2. 指導計画

単元名	ねらい	主な活動内容
千代田区の様子 (1) 学校のまわりをたんけんしよう (12時間)	◎学校の周りの様子を観察、調査し、地図にまとめながら、地域社会について理解する。	◎学区を調べて、探検マップ(絵地図)を作る。 ◎町の中のバリアを資料映像から考える。
(2) 千代田区内めぐり (13時間)	◎千代田区の地形や土地利用の様子から、人々のくらしは場所によって違いがあることを考える。	◎地図記号を取り入れて、区内マップを作る。



3. 授業について

- (1) 小単元名 「学校のまわりをたんけんしよう～町の中のバリアをさがそう～」
- (2) 目標 視覚障害がある人にとって、町の中にはどんなバリア(困ったこと)があるかを発見することができる。
- (3) 準備 バリアフリービデオ「見えない目で歩いた街」
- (4) 展開

ねらい	町には、どんなバリアがあるかを 見つけよう。	主な活動内容
1 本時の学習の目標をつかむ。 ◎「バリアフリー」という言葉を知っていますか？		◎「バリアフリー」という言葉から、壁となる困ったことがなくなる社会をめざしたいことを話し、本時の目標を確認する。
2 バリアフリービデオ「見えない目で歩いた街」を見て、話し合う。 (1) どんなところにバリアがありましたか？ (2) どうすれば、そのバリアをなくすことができると思いませんか？		◎これから見るビデオは、視覚障害のあるTさんが街を歩いたり電車に乗ったりした時のもので、Tさんがどんなことでバリアを感じているかを探しながらビデオを見るという視点を、事前に示しておく。 ◎バリアとして出た意見がわかりやすいように、黒板に図示できるように準備しておく。 ◎考える時間を十分にとり、子どもたちがグループごとにバリアフリーになる方法を考えられるようにする。 ◎実際の生活の中で気づいていることも、話し合いに生かせることもよいことを伝えておく。 ◎グループごとに話し合っている時には、机間指導をし、ちょっとしたことでも活発に意見を出し合っているグループを励ます。 ◎グループで話し合ったことを代表者が全員に報告をする場を設定し、考えたアイデアを、クラス全員で共通理解できるようにし、互いの考えが深まるようにする。
3 今日の学習のまとめをする。		◎本時の感想をまとめる時間を設定し、子どもたちの考えがつかめるようにする。 ◎ビデオの中の街には、まだ多くのバリアがあったが、子どもたちの住む地域では実際どうなのかという疑問を投げかけ、地域の学習への意識付けにする。

(5) 評価

☆視覚障害がある人にとって、町の中にどんなバリアがあるかが発見できたか。

5年生の総合的な学習の時間 **考えよう! 私たちにできること**

東京都昭島市立拜島第三小学校主任教諭 坂本千代

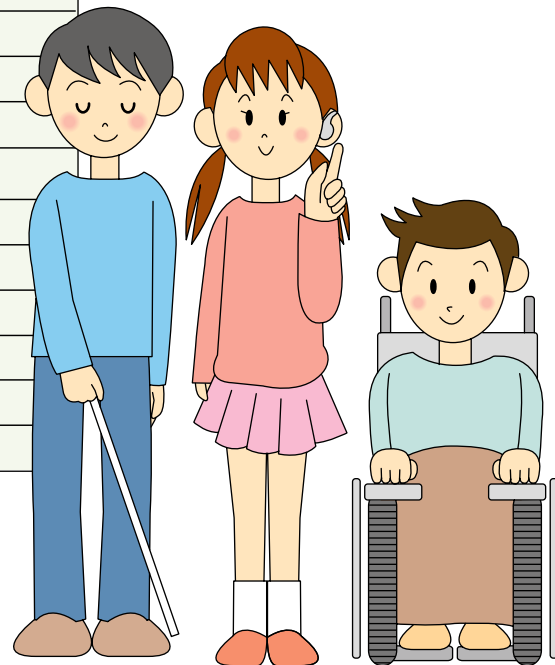
1 この実践を計画するにあたって

本校では、総合的な学習の時間の試行期間の平成11年度から5年生の2学期に「考えよう! 私たちにできること」と題して、福祉的な視点をもった学習を行ってきた。市の社会福祉協議会の方だけではなく、平成17年度からは、(株)タカラトミーで共遊玩具の開発をしているTさんと(財)共用品推進機構のMさんをゲストティーチャーとして招き、学習のオリエンテーションの段階で、全員にお話をさせていただく時間を毎年設定するようになった。それまでも、「バリアフリー」を課題に選ぶグループがあったが、共用品という目に見える、とてもわかりやすい形で実践された多くの物を知ることで、課題設定の幅も増え、実践する内容も具体的で深いものになってきた。

テーマにある「私たちにできること」は、多くの共用品の中に、様々なアイデアがある。学習のオリエンテーションの段階で、全員が共用品について学び、視覚障害のある人から実際の体験や思いを聞くことで、より現実的な学びができると考え、この取り組みを継続している。

2 指導計画

段階	学習内容
課題設定 (11時間)	障害について考えるオリエンテーション
	資料を使って、障害について考える。
	車いすや手話を体験する。聴覚障害のある人の話を聞く。
	視覚障害のある人の話を聞く。共用品についての話を聞く。(本時)
課題追究 (15時間)	自分のテーマを決定する。グループを編成する。
	グループごとに活動計画を立てる。
	活動をする。(調べる。体験する。)
まとめ・発信 (16時間)	経過報告と計画の見直しをする。
	活動をする。(さらに調べる。さらに体験する。)
	まとめ方、発信の仕方を考える。
	まとめる。
	発表の練習をする。
	発表のためのリハーサル・修正をする。
	発表会のための準備をする。
発表会をする。	
学習を振り返る。礼状を書く。	



3. 授業について(8.9/42時間)

- (1) 単元名 「共用品について知ろう」
- (2) 目標 ・Tさんのお話から、生活の中の不便を感じることができる。
・共用品とはどのようなものかを知ることができる。
- (3) 準備 共用品パック
- (4) 展開

学習活動	指導上の留意点など
1 本時の活動内容をつかむ。	◎本時のお客様であるTさんとMさんについて話し、お二人から何を学ぶかという目標を確認する。
2 ゲストティーチャーであるTさん、Mさんのお話を聞く。 共用品について知ろう。 Tさんの生活の中での不便を知ろう。	◎お二人のゲストティーチャーとは、事前に打ち合わせを行い、お話していただきたいことを確認しておく。 ◎学年の児童が一同に会し、なおかつ、共用品パックの中の物が触れるように展示できる場所を、授業の場所を選ぶ。そして、前もって、共用品を展示しておく。 ◎質問タイムも設け、子どもたちが直接質問できる時間も作るが、全体の場で質問できない子もいるので、ゲストティーチャーと触れ合える時間も考えて、お話の時間を設定する。
3 共用品を触ったり、Tさんに質問したりする。	◎共用品は、数が多いのでMさんだけに任せず、各学級担任も説明役になる。 ◎Tさんの所にも1人学級担任がつき、質問の調整等を行う。
4 今日の感想をまとめる。	◎希望者に、お二人へのお礼や今日の感想を発表する時間を設定する。 ◎ゲストティーチャー退席後、各自が感想をまとめ、次時のテーマ決定に生かせるようにする。 ◎誰もが使いやすいためにという発想で生まれた共用品の考えは、これからの学習を進めていく上で、とても大切なことであることを押さえ、授業を終わりにする。

(5) 評価

- ☆視覚障害があるTさんには、生活の上で不便さを感じることがあることを知ることができたか。
- ☆共用品とは、あらゆる人にとって、使いやすい物であることが理解できたか。

東京都千代田区立麹町小学校主任教諭 坂本千代

1. この実践を計画するにあたって

6年生の国語の教科書「小学校国語6年上巻創造」(光村図書)には、「五 共に考えるために伝えよう みんなで生きる町」という単元で「多くの人が使えるように」という教材文が掲載されている。筆者は、ユニバーサルデザインについて研究している建築家である。これまでの筆者の研究から、「だれもが利用しやすい」とはどういうことかを、具体的に子どもたちにわかりやすく書かれている。たくさん掲載されている写真も、考えるヒントになっている。子どもたちが6年生になるまでの経験も生かして考え、自分なりの発信をしていくことを目標にしている単元であるため、学習の途中で、共用品推進機構の星川さんにスポットを当てたNHK道徳ドキュメント「使いやすさを広めたい」を視聴することで、どのような視点でユニバーサルデザインを考えるとよいかのヒントが得られるようにした。

2. 指導計画

単元名	ねらい	主な活動内容
共に考えるために 伝えよう みんなで生きる町 (13時間)	◎調べたことがクラスの友達に分かりやすく伝わるように工夫して発表する。	◎身の回りにある施設や物について考え、自分なりの立場で発信するという、学習の見通しを立てる。 (1,2時間)
	◎話し合いを通してみんなの考えをよりよいものに練りあげる。	◎NHK道徳ドキュメント「使いやすさを広めたい」を見て、誰もが使いやすい物にするためには、どのような工夫が必要かを知ることができる。 (3,4時間)
	◎多くの読み手に提案内容が伝わりやすいように組み立てを工夫してまとめる。	◎ユニバーサルデザインの発想をもって、身の回りにある公共施設やそこにある物についてグループごとに調べる。 (4~6時間)
	◎提案内容を理解してもらえるように、できるだけ具体的に書いて説明する。	◎誰もが使える工夫がどのようにされていたか、足りないところはどうすればよくなるかなどを発表し、話し合っって考えを深める。 (7~9時間)
	◎調べる事柄を明らかにして、文章を読む。	◎話し合いで深まった考えを提案として文章にまとめる。 (10~12時間)
		◎学習を振り返る。 (13時間)

3. 授業について (3.4/13時間)

- (1) 目標 共用品が、人々の心をつなぐ便利な物であることを理解することができる。
- (2) 準備 共用品バック(牛乳パック、ペットボトル2L用、点字ランプ、色がつくのり、ラッチキス、缶ビール容器、シャンプー容器など)
- (3) 展開

「だれもが利用しやすい」とは、
どのような発想で生まれるか
考えよう。

学習活動	指導上の留意点など
1 校内のエレベーターのボタンの写真を見て、本時の活動内容をつかむ。	◎教科書の資料「多くの人が使えるように」にもある「エレベーター」について、校内の写真を提示し、問題提起とし、本時への意欲づけをする。
2 NHK道徳ドキュメント「使いやすさを広めたい」を見て、話し合う。 (1) シャンプーとリンスを区別する工夫をするために、大切だったことは何か、確認する。 (2) トイレのボタンは、どうすれば使いやすくなるかを話し合う。	◎「星川さんは、どんなことを考えて共用品を作っているか考えながら見ましょう」と事前に見る視点を示してから、視聴するようにする。 ◎それぞれの会社でそれぞれに工夫していても、工夫がバラバラだと使いにくい。工夫を各社で統一することで、より使いやすくなることを押さえておく。 ◎番組の冒頭に出てきてトイレのボタンについては、どのようなアイデアがあるか、話し合うことで、「だれもが利用しやすい」という視点で考えることにつながる。 ◎答えは、1つではなく、様々なアイデアがあることを伝える。
3 今日の学習のまとめをする。	◎番組の最後に星川さんが語る「いろんな人の立場でものを考えると、いろんな答えが、いろんな問題の解き方ができる。そうすると次の問題が、もっとおもしろい問題がやってくるっていうふうに思うので、人のことを考えてみるってとっても大切で、とっても面白いことだよっていうのは言いたいです。」という言葉を提示し、この考えをこれからの学習につなげていくようにまとめ、授業を終わりにする。

(4) 評価

- ☆工夫を統一することが、誰もが利用しやすいことにつながるがわかったか。
- ☆いろんな人の立場でものを考えていくことの大切さがわかったか。

